

第2回 那須塩原駅周辺まちづくりグランドデザイン会議 会議要旨

○日時 令和6年4月12日(金)15:30~17:30

○場所 北山創造研究所(東京都港区南麻布 3-2-3 ハウス仙台坂上 2F)

○出席者

【ボードメンバー】 ※敬称略、五十音順。

新井 良亮、金指 潔、北山 孝雄、隈 研吾、丹下 慎也、森 明、涌井 史郎(座長)

【那須塩原市】

渡辺市長、藤田副市長、磯企画部長、増淵那須塩原駅周辺整備室長、室員4名、新庁舎設計事業者3名 ほか

○次第

- 1.開会
- 2.座長挨拶
- 3.ボードメンバーより一言
- 4.内容(非公開)
 - (1) 第1回グランドデザイン会議の振り返りについて
 - (2) その後の経過とまちづくり協議体の開催結果について
 - (3) 新庁舎の基本設計案について
 - (4) 実証実験・モデルイベントについて
 - (5) 今後のスケジュールについて
- 5.座長総括・閉会

※内容の各項目に対し、適宜意見交換を実施。

○会議要旨

1.開会

2.座長挨拶

3.ボードメンバーより一言

各ボードメンバーから、駅周辺まちづくりに関する印象、今後への期待等に関して一言ずつ挨拶を行った。

4.内容(進行:涌井座長)

(1)から(5)まで、それぞれ資料に基づき事務局より説明を行った後、意見交換を実施した。

- (1) 第1回グランドデザイン会議の振り返りについて
- (2) その後の経過とまちづくり協議体の開催結果について
- (3) 新庁舎の基本設計案について
- (4) 実証実験・モデルイベントについて
- (5) 今後のスケジュールについて

<意見交換におけるボードメンバーの主な意見>

- ここ数年で乱開発が進んだ印象を感じる。「那須塩原駅周辺」と「規制などを遡及させる地区設定を行う範囲」の整合を図る必要があるのではないか。大通り沿いや新庁舎周辺などの中心地だけ開発する議論をしても、その周囲が乱開発されてしまつては本末転倒であるので、面的にどういうまちにしていくのかを描きながら必要な策を講じる必要がある。
- 面的なまちを考える上では、既存の規制がどの範囲に及んでいるのかなど、複数のファクトの整理を行う必要がある。そういった情報を落とし込んだフィジカルな図面を用意していただきたい。
- 新幹線駅の開業、首都機能の移転など、このエリアの土地の投機化が土地の流通を複雑化させた要因であると推察される。これまでの土地にまつわる様々な経緯をしっかりと物理的に洗い出し、それぞれの利害関係を整理し、関係者の理解を得ることがまちづくりの実現を図る上で必要ではないか。
- 地方では、人と触れ合う場所、人と出会う場所、居場所がものすごく少ない。そういう意味で新庁舎に整備を見込む「公園」という空間は大きな意味を持つ。ウォークアブルの本質は「出会い＝クリエイションの場の創出」。そういう視点の必要性を市民に訴えていく必要があるのではないか。
- 那須塩原駅周辺のあり方を考える場合、近隣市町をどう位置付けるかによってまちづくりにおける意味合いや取組の内容が変わってくる。那須塩原駅は那須地域への観光者が相当数利用する可能性があり、那須町に多く立地する観光資源や御用邸などの独自資源との関連性を考える必要がある。
- 駅前から新庁舎までの空間の融合性・シナジーみたいなものをどう考えていくのかに合わせて、それらを魅力的に維持していく維持管理のあり方についても検討が必要である。
- まちづくりはハードを整備して終わりではなく、住民の主体的な関わりによってこそ実現されるものである。住民の主体的なエアリアマネジメントを促進するプロセスが非常に重要である。
- 新庁舎がその土地独自の経営資源を使いながら市を象徴する建物となれば、代表的な先進例になっていくことも考えられる。水の使い方ひとつ、木材の使い方ひとつ、市の独自性を持って取組の内容を効果的にアピールしていただきたい。
- 新庁舎建設、大通りの公共空間整備等を進める際に、それぞれの部分の具体的な使い方を想起させるような取組を併せて行うことにより、地域の機運を高めることができるのではないか。
- 今回のまちづくりが新たな那須塩原のブランディング、例えば福祉や障害者の方々に優しいとか、あるいはまちの顔がそこにできるとか、品格のあるロイヤルというものを頭につけても恥ずかしくないようなクオリティの向上、ブランド力の向上にどう結び付けるのかを今後検討すべきではないか。

5.座長総括・閉会

4 内容における各メンバーから出た意見を涌井座長にて総括した。

- 第1回会議において提言した5つの基本方針に関して、現在の取組状況を伺い、それに付随する課題等に関して議論させていただいた。
- 新庁舎の検討における市民参画、まちづくり協議体での議論など、市民にとってまちづくりの具体的な姿が見え、熱心な議論が交わされている状況を伺い、力強いなと感じた。
- 今後、整備を計画する公園は、市民の力なくして維持管理を行うことは難しいことから、まちづくりにおいて関わった市民のコミュニティが種となって、継続したまちづくりが行われていくことを期待する。
- そうした関わりと併せて「行きたい、遊びたい、暮らしたい」と認知されるまちをどのようにデザインしていくかが重要だということを改めて感じた。
- 夢が議論される一方、現実の問題に立ち返る必要がある。「那須塩原駅周辺」のエリアをどの範囲まで含めてまちづくりを行うのか、そのエリアの土地の動向や地権者の利害関係等の状況を整理しつつどのように理解を得ながら取組を進めていくのか、いずれにせよ地権者はじめ地域の皆さんに訴えかけて理解をいただきながら問題点が早めに出尽くす状況を作ることが重要である。
- 今回のまちづくりが新たな那須塩原のブランディング、例えば福祉や障害者の方々に優しいとか、あるいはまちの顔がそこにできるとか、品格のあるロイヤルというものを頭につけても恥ずかしくないようなクオリティの向上、ブランド力の向上にどう結び付けるのかを今後検討すべき課題として申し添えたい。

文責：那須塩原駅周辺整備室